

学力向上に効果のある取組事例

大分大学教育学部附属中学校

②思考力、判断力、表現力等の育成

取組の具体①

(1) 授業者の見通し・振り返りにおける授業改善

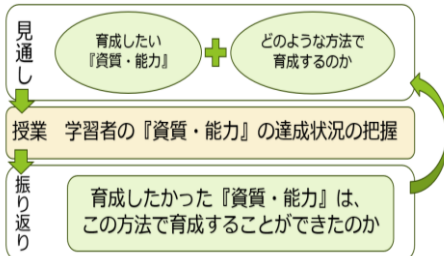
○教科ごとの「授業改善のイメージ」・「単元プランシート」を作成し、評価方法を充実させる。

- ①形成的評価 いつ・どのようにするか計画し、指導改善に活かす。特に配慮を要する学習者への手立てを充実させる。
- ②総括的評価 学習者の力が高まった「ここぞ」という場面で多面的な方法で評価する。また明確な評価基準を設定する。

(2) 学習者が自ら学びを俯瞰し自己調整できるようにするために、見通し・振り返りを往還するサイクルを充実させる。

- ①今未来手帳を使い、日常的に見通し・振り返りを行う習慣を定着させる。
- ②単元のめあて(単元を通して追求する課題)を明示し、単元を通しての見通し・振り返りを充実させる。
- ③一時間の授業の中での「めあて達成」や「課題解決」のための見通しや、その見通しに対する振り返りを充実させた自己調整モデルFUCHU STYLEを構築する。

学習者の『資質・能力』の育成を可能とする授業の実現



自己調整サイクル FUCHU STYLE



取組の具体②

本校では全国学調の過去問を教材研究に系統的に活用し、単元設計・授業改善を行った。中2数学において「日本とフランスのじゃんけんにおける勝敗の決まりやすさを数学的に説明する」授業を実施。今年度(2025年度)の全国学調でじゃんけんカードゲームの分析が出題。授業内容と構造的に類似しており、本校の正答率は全国平均を有意に上回った。過去問活用は“教え込み”ではなく、日常の中に潜む数学をどのように身近に感じさせ授業に落とし込むかという教材化のヒントとして活用することが大切であることが示唆された。

